

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	アジア・モンスーン地域の建築環境検討小委員会		主 査 名：福代 和宏 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会		委員長名：糸長 浩司
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 急速な経済発展を続けているアジア地域はエネルギーの一大消費地でもあり、地球温暖化に多大な影響を及ぼしていると考えられる。そこで、アジアの都市とその周辺の農村部における住宅エネルギー消費量の実態を明らかにし、住環境要因と住宅エネルギー消費の関連性を構造的に明らかにする。そして、文化的に多様なライフスタイルを考慮した将来予測を行なうことにより、エネルギー消費の増加を抑制しつつ、快適で健康な室内環境を実現するための省エネルギー政策の基礎となる資料を整備する。</p> <p>初年度： ①東アジア・東南アジア等における住環境の実態調査 ②都市部の商業ビルやオフィスなど非住宅建築の省エネに向けたエネルギー消費実態調査の実施 ③自然エネルギー利用に関する調査 ④アジアにおける社会経済・地理データの収集</p> <p>2 年度： ①東アジア・東南アジア等における住環境の実態調査 (継続) ②非住宅建築の実態調査 (継続) ③自然エネルギー利用に関する調査 (継続) ④アジアにおける社会経済・地理データの収集 (継続) ⑤住宅用エネルギー消費のモデル構築と分析 ⑥アジアにおける住宅部門省エネルギー対策の検討</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：福代和宏 (山口大学) 幹事：川上梨沙 (清水建設) 委員：中上英俊 (榊住環境計画研究所)、吉野博 (東北大学名誉教授)、吉野泰子 (日本大学短期大学部)、外岡豊 (埼玉大学名誉教授)、高偉俊 (北九州市立大学)、高口洋人 (早稲田大学)、久保田徹 (広島大学)、一ノ瀬雅之 (首都大学東京)、宇野朋子 (武庫川女子大学)、リジャル H バハドゥル (東京都市大学)、小西純 (統計情報研究開発センター)、玄姫 (榊住環境計画研究所)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2019 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~fukuyo/Asia-committee/	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 居住環境の調査に関しては、久保田らによって東南アジア各国の調査が進められ、その成果は ISHVAC2019 (The 11th International Symposium on Heating, Ventilation and Air Conditioning, 哈爾濱工業大学), SBE19 TOKYO (Sustainable Built Environment Conference 2019 in Tokyo), 第 19 回アジア学術会議 (19th Science Council of Asia, ミャンマー・ネピドー) 等。 2. 非住宅建築のエネルギー実態調査に関しては、一ノ瀬らによってアジア蒸暑地域におけるグリーンビルの環境性能に関する調査が進められた。 3. 自然エネルギー利用に関する調査に関しては、福代らによって後発開発途上国の住宅部門におけるバイオマス利用の調査が進められた。 4. アジアにおける社会経済・地理データの収集に関しては、東アジア・東南アジア各国を対象にデータ収集が行われた。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の調査研究はほぼ活動計画通りに実施された。 2. これまで委員会活動の課題として、研究成果を委員会全体で共有するため活動、すなわち委員会や勉強会の開催が不十分であることが挙げられていた。 3. これに関しては上述の SBE19 TOKYO など国際会議の場で委員会を開催することなどによって、部分的に解決を見た。